

# 私たちはふるさと置戸町 100周年を支援します

ふるさと置戸会 幹事 岡田 康



私たちの東京「ふるさと置戸会」は去る平成26年1月創立30周年を迎え、次の新しい10年への歩みを始めました。

私が「置戸町」を離れたのは昭和48年。もう故郷での歳月の倍近くを千葉県袖ヶ浦市で過ごしています。「ふるさと置戸会」のメンバーの大半は私よりも長くふるさとを離れていますが、今でもふるさとへの強い郷愁があります。ですから、今年11月の「開町100周年」を記念する式典への参加、篤志寄付によるふるさと応援提案など、本会には会のメンバーからいろいろの思いが寄せられています。

町の人口はかつての13000人から3000人余りと大幅に減少していますが、その代わりに置戸町出身者が道内各地はもとより、全国各地に広がっており、その子供たちや孫たちを含めると、何万人にもなっていると思います。

現在置戸町では町長の提案で、まち・ひと・しごと創生法にもとづく地方版総合戦略の策定に広く町民からも意見を聞く、「産、学、官」などの代表者による有識者会議」が設置されたようです。

これからの置戸町のあり様に大きく影響する「総合戦略」には現在住んでいる町民の皆さんの思いとアイデア、新たな発想が反映されるのが重要と思われれます。これを機に、どのようなまちづくりをするかを考えて欲しいと思います。そして、その中に全国各地に広がる置戸町出身者の想いもぜひ取り込む工夫があれば、より一層良いものになるのではと思います。

## 自然豊かな厚岸湾と湖

東京厚岸会 会長 宗石 亨



私達のふるさと厚岸町は道東の釧路市と根室市の中間あたりに位置しています。厚岸湾・湖周辺では山海の幸に恵まれています。海域では、カキ、アサリは勿論、数多くの魚介類や海藻類など水産資源が豊かです。そして、冷涼な気候を利用した酪農が盛んで、豊かな自然環境の中での寒冷地酪農経営も安定的に発展を遂げています。

また、道立自然公園として、あやめヶ原、小島・大黒島、愛冠岬、厚岸湖・別寒辺牛湿

原（ラムサール条約登録）など、豊かな自然環境にも恵まれており、自然豊かな観光地としても自慢できるものが沢山あります。

厚岸町は歴史的にも注目され、縄文時代の遺跡確認、江戸時代（寛永年間）松前藩によるアッケシ場所設置、国泰寺跡と正行寺本堂（国の重要文化財）、明治三三年に厚岸町となり、大正五年厚岸火力発電所設置、翌六年釧路・厚岸間の鉄道が開通、十年には根室まで全線開通し、昭和三五年に人口二〇一八五人

# 北海道南会 創立55周年 ふるさと訪問旅行

北海道南会 会長 葉袋 泰



北海道南会は本年創立55周年を迎えました。その記念事業の一つとして「ふるさと訪問旅行」が5月24日（日）〜26日（火）二泊三日の行程で行われ、24日午後5時よりベイエリアの《みなとの森》レストランで道南会

会員25名と、函館市片岡副市長、小山内観光部長、以前東京事務所勤務されていた、酒井氏、関谷氏、廣部氏、西谷氏、そして七飯町の中宮町長様方との交流を深めました。

今回の「ふるさと訪問旅行」は函館の皆さんとの交流と、北海道 仙境の湯 上の湯温泉「銀婚湯」で温泉を満喫しようとの旅でしたが、思い描いた以上に八雲町の歴史の深さ等々に触れ、行き帰りには、大沼公園・新幹線の「新函館北斗駅」駅舎を見ながらの満足

のゆく意義深い旅でした。26日午後、函館市を教えるまでとなりました。昭和四七年には海上橋の厚岸大橋（四五六m）が完成し、産業・経済・文化に飛躍的な発展をもたらしています。

このようなふるさとを懐かしく語り親睦の輪を広げる、東京厚岸会は、今年二月にふるさと厚岸から若狭町長をはじめ各団体役員の方にも参加戴き、四五回日の親睦会を盛大に開催しました。会場では、ふるさとの名産品を販売し、おみやげも用意、今年も大変ご好評を頂いております。

文末となりますが、北海道ふるさと会連合会の益々の発展と会員皆様さんのご健勝、ご多幸をお祈り致します。

役所を表敬訪問。工藤壽樹市長も貴重な時間を割いて函館市の現状や、大きな課題についてまた、新幹線の開業に向けての観光函館の活性化などの明るいお話も聞く事が出来ました。

さて、待望の北海道新幹線が、愈々来年3月に開業します。函館市では新幹線開業とともに函館の多様な魅力をPRするため各種プロモーションを実施しておりますが、特に首都圏でのPRとして、来年1月8日から17日まで東京ドームで開催の「ふるさと祭り2016」に市単独で大型ブースを出展すべく準備を進めております。道南会としても函館の身近な応援団として多くの会員の参加で協力して行きたいと考えております。

道南会新年総会・懇親会は、創立55周年記念祝賀会と併せ、平成28年2月6日（土）ホテル・ラングウッドで開催を予定しております。



ふるさと訪問旅行参加者一同